

平成28年度 天理中学校 学校評価 <教職員用>

平成28年度 天理中学校 学校運営計画			評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない	
重点目標	目標達成の方策		評価	成果と課題
信条教育	「よふぼく」教師であることを常に自覚して、積極的に生徒に働きかける。	1 教師自らが道を求め、折に触れ神様のお話を取り次ぐ。	B	朝の学校参拝でのおつとめ、中庭での大祭参拝、また春の廻廊拭きおやこひのきしん、夏のお茶接待ひのきしん、秋の街頭ひのきしんなど、学校行事としてのひのきしん活動には、教職員生徒ともに意欲的に取り組んでいる。さらにそうした姿勢や意識を、神様のお話を積極的にすることにより、日常生活の中に反映させていくことができるように努力していくことが大切である。 学校生活全般における「おさづけの取り次ぎ」「お願いづとめ」は意識の高まりとともに積極的な実践が多く場面で見られている。教師自らが「よふぼく」であるという自覚を持ち、さらに日々努力したい。
		2 朝の学校参拝を、生徒の手本となるようしっかりとつとめる。	A	
		3 「おさづけ」の取り次ぎと「お願いづとめ」を積極的につとめる。	B	
		4 ひのきしんの活動に生徒とともに積極的に取り組む。	A	
生徒指導	積極的な生徒指導を行う。	5 規律正しい学級づくりのため、授業終始の挨拶指導の徹底を行う。	A	今年度、生徒指導の9つの項目すべてが、A評価となった。 年度当初、問題行動に対して、タイミングを逃さず適切な指導をすること。また、問題を抱え込まず、学級→学年→学校と報告・連絡・相談・対応を再確認し、初期対応が大切であること、いじめに関しては、教職員側の規律正しい学級づくりが大切であることを申し合わせた。 具体的には、挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿・授業終始の挨拶の指導を徹底した。 問題行動に対しては、職員朝礼や会議の中で、できるだけ早く報告し、生徒の現状を共通理解しながら、指導した。 指導の難しい生徒や家庭が増える中、組織的な対応が不可欠であり、皆で生徒を育成していく意識が定着していると思われる。 教職員の日々の家庭訪問や電話連絡、細かな指導が今の落ち着いた学校を作り出している。
		6 部活動指導における生活指導の徹底を図る。	A	
		7 問題行動において、学級・部・学年から学校全体としての組織的な対応を行うとともに、保護者との連携を密にしてすすめる。	A	
	規律ある生活習慣の確立をめざす。	8 服装や頭髪、時間、交通ルールなどのきまりを守らせ、規範意識の向上をめざして日常的に指導を行う。	A	
		9 挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿など、全教員が意識を統一して指導を行う。	A	
		10 遅刻指導などを通して、個々の生徒の心の動きに気づき、家庭訪問を行うなどきめ細やかな指導を図る。	A	
		11 いじめ問題の重大性を全ての教職員が認識し、学校長を中心に未然防止「いじめを生まない土壌づくり」を組織的に取り組む。	A	
いじめのない学校生活をめざす。	12 いじめの態様や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、職員会議や校内研修などの場で取り上げ、教職員間の共通理解を図る。	A		
	13 いじめ問題を、特定の教職員が抱え込んだり事実を隠したりすることなく、報告、連絡、相談を確実にし、学校全体で組織的に対応する。	A		
学習進路	基礎学力の充実と学習習慣の確立。	14 基礎基本に重点をおき、くりかえし取り組むことの大切さを教える。	A	本年度も各教科において基礎基本を含めた指導を大切に、さらに宿題を活用しながら基礎基本の充実をはかり、家庭学習を徹底する努力をした。そのため宿題の提出物はかなり徹底でき、またやりとげる大切さを認識させることができた。また受験対策としても3年生は入試5教科において、教科書を早めに終わらせ、受験に向けての授業の実施ができた。進路指導では管内高等学校の説明会を全保護者を対象に実施し、学校案内を配るなどし、進路情報の提供をしたため、進路に対する意識付けはよくできていた。 課題としては授業の内容について十分に理解できていない生徒、宿題等がどうしても出せない生徒への取り組みである。放課後を利用し、追試、補習等をして対応はしているが、部活動との兼ね合いもあり、すべての生徒に対し、完璧にはできていない現状がある。部活動とも連携しながら、さらなる取り組みをしていきたい。また担任を中心に、それぞれの生徒の徳分・関心を生かした進路開拓ができるように、進路指導の充実を今後をはかっていきたい。
		15 適切な内容の課題を与え、やりとげさせる指導を行う。	A	
	進路についての丁寧な指導をめざす。	16 管内学校などの進路情報を提供し、生徒の意識づけを図る。	A	
		17 個々の徳分に気づかせ、それをいかす方向で進路を考えさせる。	B	
研修	教員の授業力の向上をめざす。	18 研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる。	A	研究授業に関しては、新任の教職員の研究授業が活発に行われ、他の教職員の研修にもなった。公開授業もいくつかあったが、数は少なくもっと互いに公開し合って授業力の向上に努めたい。 研修に関しては、今年度不登校生徒、発達障害の生徒について研修を行い、有意義であった。このテーマは継続して研修したい。
		19 計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る。	B	
人権教育	陽気ぐらし世界の実現達成に貢献しうる実践力をもった人間育成をめざす。	20 いじめなど、不合理・矛盾に気づき、正しいことが主張できる態度を育てる。	A	人権教育指導計画に従い、人権教育講演会、人権作文、いちれつきょうだい学習に取り組み、生徒の人権意識を高めることができた。 いじめ対策については、毎学期県教育委員会のアンケート、校内のアンケートを通して、早期発見、対策に努めている。いじめを許さない土壌を、平日頃のクラスや学年運営の中で育てていきたい。多様化しているいじめに対する対応も課題である。そのために、生徒個々としてしっかりと向き合い、話せる時間、環境を整える必要がある。
		21 差別やいじめなどを排除し、人の立場に立って考え、行動できる力を身につけさせる。	A	
		22 自分の進路を開拓し、社会の発展に努める力量を育てる。	B	
教育相談	支援を必要とする生徒に対して、教師、保護者、カウンセラーおよびオアシスフレンドが連携を密にしながらサポートを行い、生徒個々の能力を伸ばしていく。	23 支援を必要とする生徒の把握につとめる。	A	本年度も支援を必要とする生徒に対して、迅速かつ丁寧に、また関係者で連携を密にしながら対応できた。 合同カンファレンスを持ち、個々の生徒の共通理解と対応等について話し合う機会が昨年より増えたことは良かったと思う。しかしながら、その対応、指導の難しさから、特別支援の体制を早急に整える必要があることが明らかになった。次年度の大きな課題である。
		24 支援を必要とする生徒へ、迅速かつ適切に対応し、必要に応じてカウンセリングにつなげる。	A	
		25 適切な支援を行うため、合同カンファレンスを行う。	A	
		26 支援を必要とする生徒への、有効な別室の活用を進める。	A	
美化	「天中は美しい学校です」と言える学校をめざす。	27 感謝の心で活動を実践するよう指導する。	A	本年度はすべて項目でA評価であった。やはり、感謝の心での清掃や、一生懸命行うことが結果的に美しい学校だと感じることができるとつながっていくと思う。嫌々ではなく、感謝の心で自ら進んで清掃を行い、綺麗なまま維持できるよう美化活動を考えていきたい。そして、来校していただいた方に美しい学校だと感じていただけるようにしていきたい。
		28 一生懸命行う素直な心と、自分で仕事を見つけ進んで努力できるように指導する。	A	
		29 美しい学校だと感じることができる環境をみんなで創る。	A	